



行政

企画振興部 市町村課
谷田部さん

◎ 経歴（採用10年目）

2015年度～	企画振興部 総合政策課
2018年度～	由利地域振興局 総務企画部
2020年度～	政策研究大学院大学派遣
2021年度～	あきた未来創造部 地域づくり推進課
	(2022年4月末から2023年4月中旬まで育児休業取得)
2023年度～	健康福祉部 福祉政策課感染症特別対策室
2023年10月～	企画振興部 市町村課

◎ ある日のスケジュール

5:30	起床・朝食作りなど
6:30	朝食・子どもの登園準備など
7:30	出勤
8:00	勤務開始 ※ 時差出勤制度を利用
8:30	国からの照会を市町村に展開・市町村からの問合せ対応など
12:00	昼休み
13:00	交付金の交付決定通知作成・送付
15:00	交付金のシステム入力作業
16:45	退勤
17:15	帰宅・夕食作り
18:15	夕食
19:30	子どもと入浴
21:00	(寝かしつけが妻担当の日の場合)残りの家事など
23:00	就寝

Q 育児休業を取得しようと思ったきっかけは？

産後に体力的にも精神的にも不安定になるであろう妻をサポートするため、また、育児に関する夫婦の意思決定にスタート段階からしっかりと携わるため、育児休業を取得しよう決めました。さらには、せっかく育児の機会に恵まれたからには一通りのことを経験したいという思いがあり、期間については思い切って約1年間としました。

Q 育児休業を取得することに不安はありましたか？

当時から、庁内では男性の育児休業取得を勧める雰囲気がありましたので、そこまでの抵抗や不安はありませんでした。特に、長期の育休を取る職員がいる部署には代替の正職員を配置するという制度があると知ったことが、自分の中では長期の育休取得の決め手になりました。

Q 育児休業を取得した感想を教えてください。

昨日までできなかったことができるようになっていたり、反対に昨日までやっていたことをやらなくなったりと、子どもの日々の成長や変化を自分の目で見て実感できることがうれしかったです。また、私の場合は妻の方が早く職場復帰したため、数ヶ月間は日中の家事や育児を一人で行いましたが、育児をする視点から社会や行政サービスを見る感覚が身についたと思うので、今後の仕事で活かせればと考えています。

Q 職場復帰はスムーズにできましたか？

未経験の分野に年度途中から復帰となってしまいましたが、周りの方々に温かく指導していただき、スムーズに仕事との両立へ移行することができたと思います。今後、自分の周りでも同じような境遇の人がいれば、サポートしたいと思うようになりました。

Q 職場復帰後の子育てと仕事の両立はどのようにしていますか？

少しでも時間を有効活用するため、時差出勤やテレワークを積極的に活用しながら、妻と協力して家事・育児に取り組んでいます。また、子どもの発熱等で突発的に休まなければならないことに備えて前倒しで資料の作成を進めたり、柔軟にテレワークに切り替えるために紙を極力使わないように心がけたりといった工夫をしています。

＼ 県職員を目指している方へのメッセージ！ ／

秋田県庁では、時差出勤やテレワーク、各種休暇制度など、職員の多様な働き方を支える制度が整っていると思います。仕事のやりがいを重視している方にとってだけでなく、仕事と家庭との両立を重視している方にとってもおすすめです！